

最近の中露軍事協力とその影響



5月9日、ソ連大祖国戦争勝利80周年閱兵式に参加した中国人民解放軍三軍儀仗隊
(出典：中国軍網20250509)

2025. 6. 27

国家基本問題研究所 研究員 中川真紀

※ 本書の無断転載、複写、複製を禁じます。
衛星画像は著作権の関係上Maxar社の画像使用は別途申請が必要、またMGProの画像は申請不可・転載禁止です。

目 次

- 1 中露関係概況
- 2 軍事協力の状況と中国の狙い
 - (1) 海上
 - (2) 航空
 - (3) 宇宙
 - (4) 戦略演習
- 3 評価と日本への影響

中露関係概況

外交関係

- 1996年：戦略協力パートナーシップ
- 2001年：中露善隣友好協力条約
- 2019年：新時代の包括的戦略協力パートナーシップ
- 2025年：中国抗日戦争・ソ連大祖国戦争勝利及び国連創設80周年共同声明

中露善隣友好協力条約（抜粋）

- 第5条：台湾は中国の不可分の一部であり、露は如何なる形式の台湾独立にも反対する
- 第9条：一方が平和への脅威・平和の破壊或いは安全保障上の利益と侵略の脅威に関わると認識する事態が発生した場合、双方はこの脅威を排除するため、直ちに連絡・協議を行う

中国抗日戦争・ソ連大祖国戦争勝利及び国連創設80周年記念共同声明 2025/5/8

- 両国は各分野での協力を引き続き強化し、外部からの挑戦に適切に対処する
- 両軍の緊密な関係維持は、両国の主権と国益の擁護に特別な意義を有す
- 軍事技術協力・共同演習の規模と範囲・海空共同パトロール等を拡大する

- 台湾有事の際、露は中国が脅威と認識する対象を排除するため、「連絡・協議」を行う条約上の義務を有し、「適切に対処」するため軍事協力拡大を宣言
- 中朝友好協力相互援助条約にある「軍事及びその他の援助」はなく、非同盟

両軍の軍事協力

- 2003年：SCO（上海協力機構）の枠組みで初の**多国間**対テロ共同演習
- 2012年：初の中露**二国間**共同演習
- 2019年：初の共同**パトロール**

年	事象	共同演習			共同パトロール		
		海上	戦略演習	ミサイル防衛 (CPX等)	海上	空中	海警
2012	習中央軍委主席就任 プーチン大統領復帰	○					
2013		○					
2014	露のクリミア「併合」	○					
2015		◎					
2016	南シ海裁判で中国違法判決	○		○			
2017		◎		○			
2018			○露				
2019	香港デモ活発化	○	○露			○	
2020	COVID-19世界的蔓延		○露			○	
2021		○	○中		○	○	
2022	露のウクライナ侵攻	○	○露		○	◎	
2023			○中		○	◎	
2024		○	○中・露		◎	◎	○

注：○は1回、◎は2回実施

中露と西側諸国との関係悪化につれ、**習・プーチン**の利害が接近。演習は年々拡大

海上共同演習

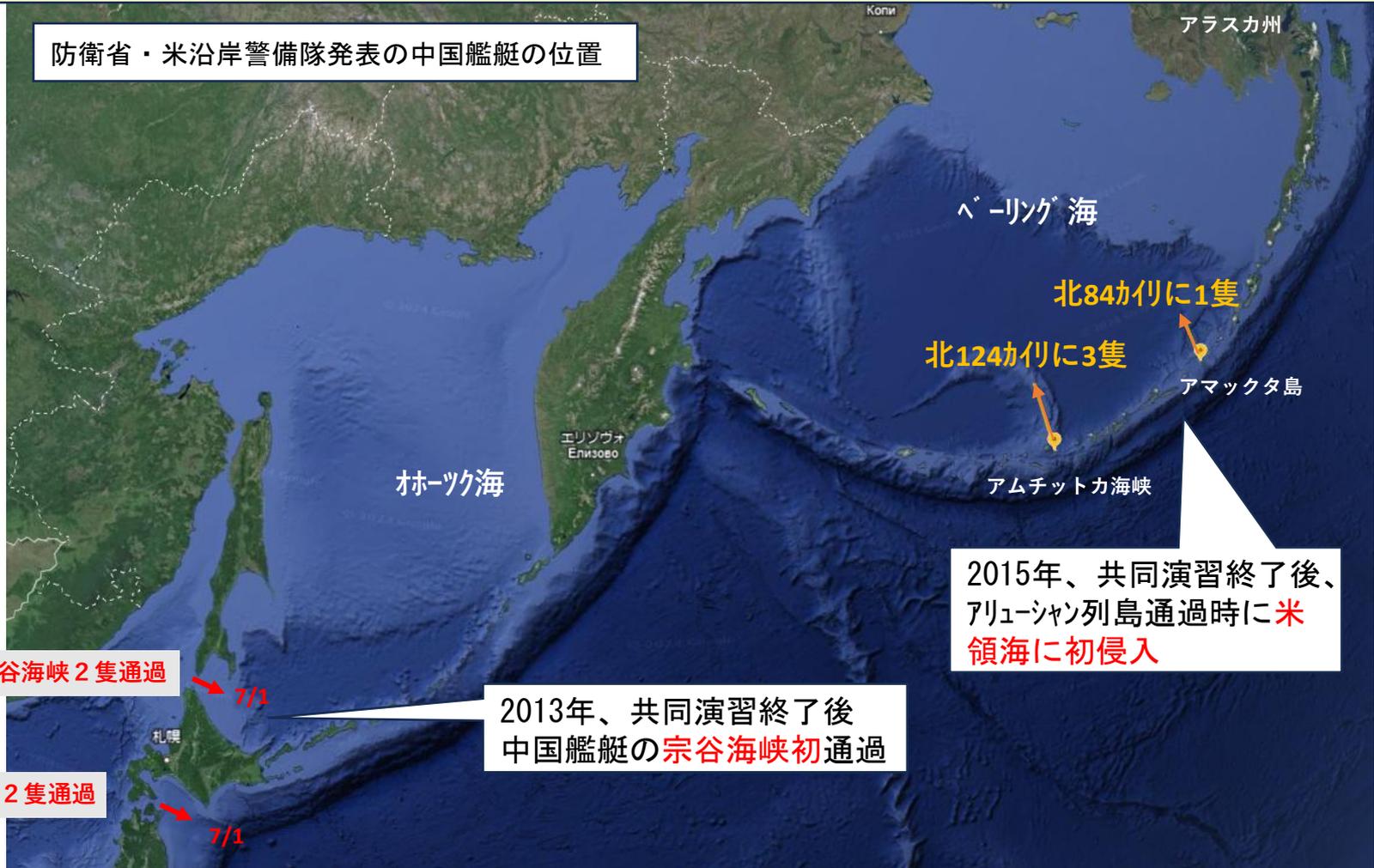
注：「」内は演習のテーマ（確認できたもののみ記述）

	主催	場所	内容等
2012	中	黄海	「共同防御・シーレーン防衛」
2013	露	日本海	○ 中国海軍初の海外大規模派遣訓練（主力艦艇7隻） ○ 通信・補給・海象等の課題
2014	中	東シナ海	○ 泊地防御を初演練 ○ 初の訓練艦艇全て中露混成
2015	露	地中海	「遠海航行安全擁護」
		日本海	着上陸を初演練
2016	中	南シナ海	○ 初の対抗形式、島嶼奪取を演練
2017	露	バルト海	「共同救援と海上経済活動安全擁護」
		日本海・林ツク海	潜水艦救難を初演練
2019	中	黄海	「海上共同防衛行動」
2021	露	日本海	「海上戦略レーンの安全擁護」 ○ 掃海を初演練 ○ 演習に接続し、共同パトロール開始
2022	中	東シナ海	「共同海上安全擁護」 ○ 封鎖・臨検・拿捕を初演練 ○ 事前調整なく、直接演習海域で合流
2024	中	南シナ海	「海上安全脅威への共同対処」

- 重視事項：台湾や南シナ海での作戦や欧米を牽制する場所・科目を選定
- 共同度合：事象発生時に自国から航行、現場で共同作戦できるまで演練

海上協力の影響：中国艦艇の米沿岸への展開

- 2024年7月、米沿岸警備隊が**ベーリング海** **EEZ**内を航行する中国艦艇4隻を確認したと公表。米呼びかけに対し、中国側は『航行の自由作戦』と返答



露が中国の北方海域へのアクセスに協力

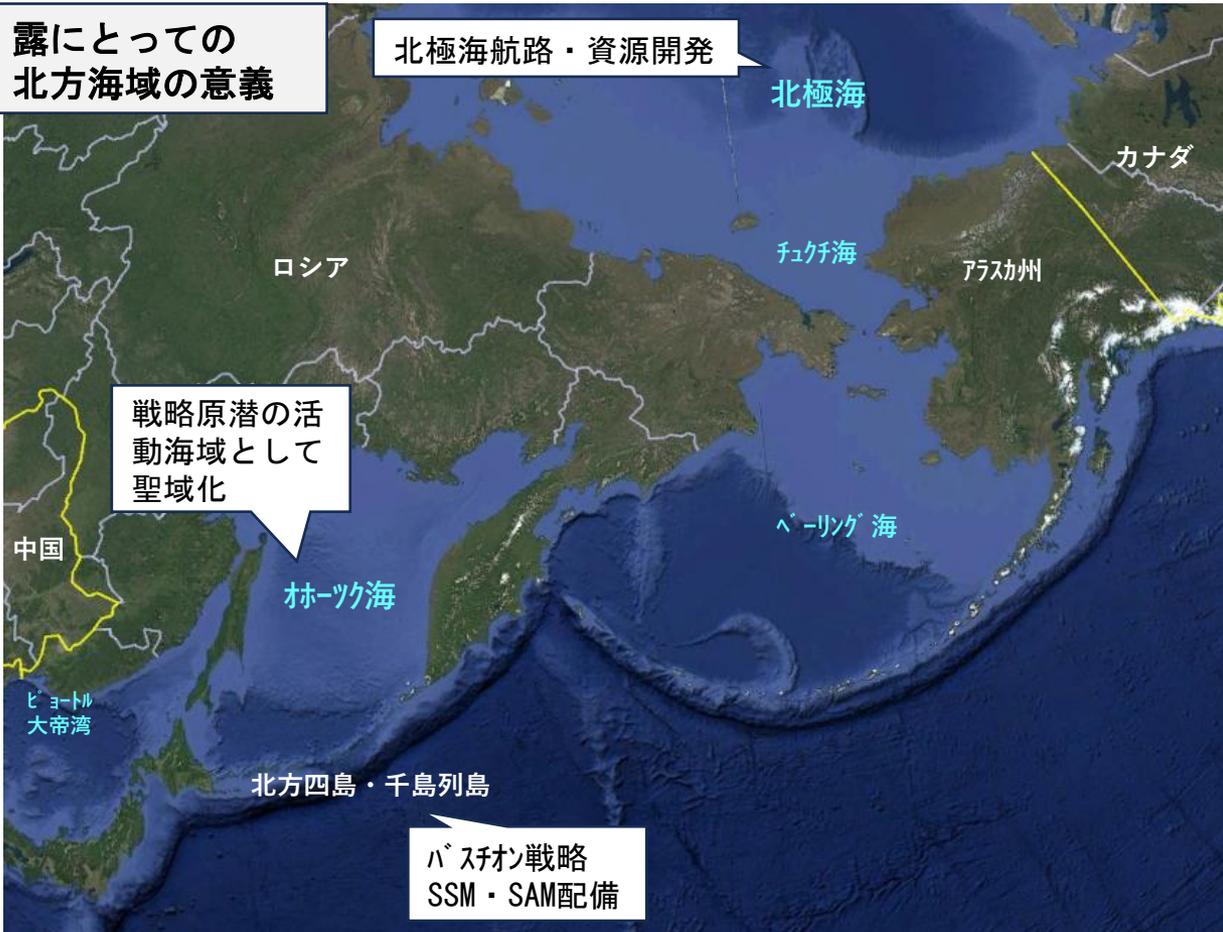


中国海軍が**米本土沿岸**で牽制

海上協力の影響：海警の北方海域への展開

- 2024年9～10月、中国海警局と露国境警備隊が、ピョートル大帝湾で**共同演習**及び北太平洋公海**共同パトロール**を実施。中国海警として**初めて北極海**に進出
- 米沿岸警備隊は、ベーリング海で中露巡視船4隻を視認、露EEZの5マイル内側を航行しており、米沿岸警備隊が確認した**中国海警船としては最北**であると発表

露にとっての北方海域の意義



露が**聖域**とする海域等で中国軍・海警の活動に協力

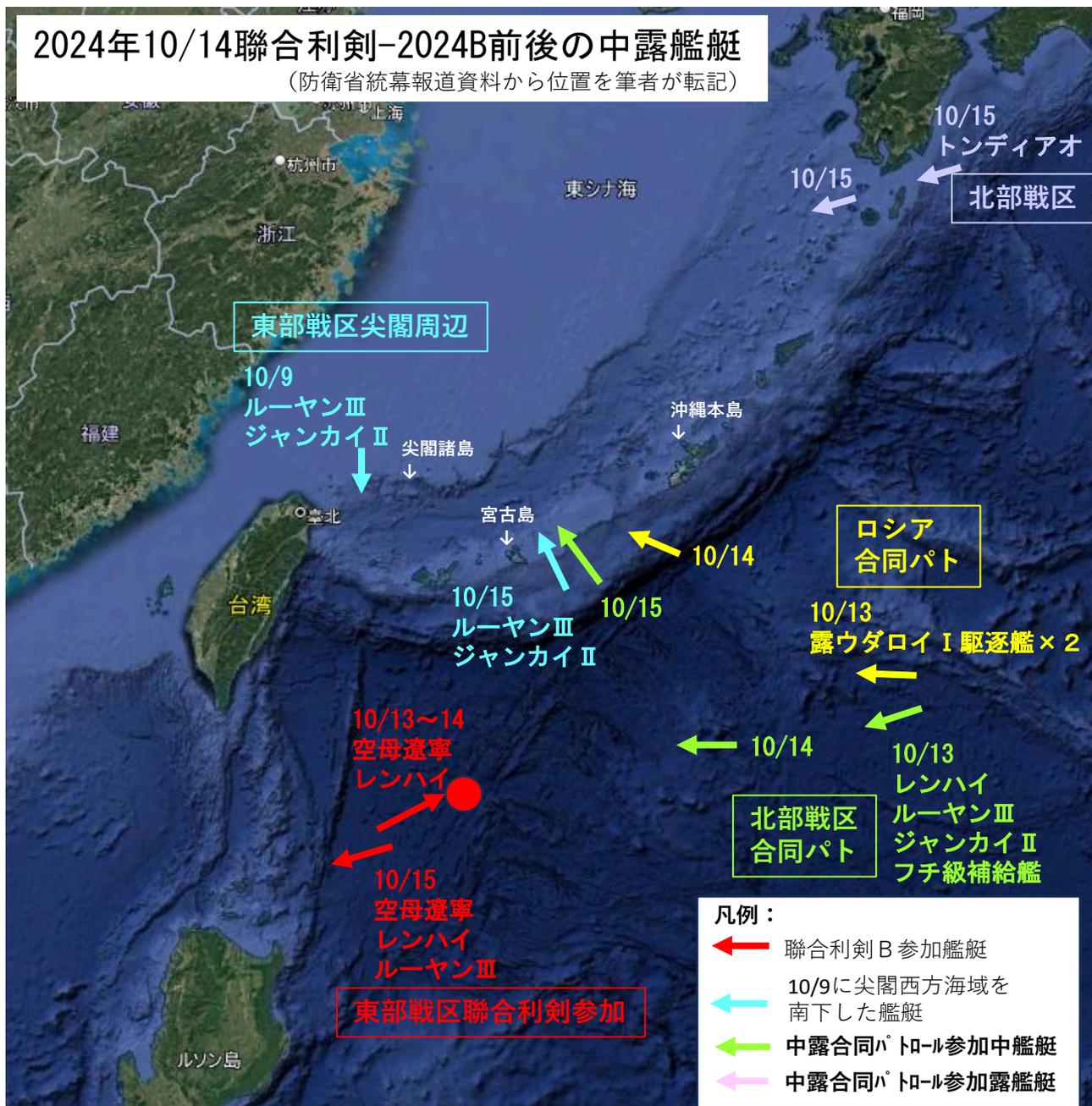


- 中露の軍事協力・信頼関係が非常に高いレベルに発展
- 露領域の中国軍の**常時展開へのハードルが低下**

海上協力の影響：露艦艇の南西諸島での展開

2024年10/14聯合利剣-2024B前後の中露艦艇

(防衛省統幕報道資料から位置を筆者が転記)



聯合利剣演習と連携し南西諸島付近で台湾有事の際の中露の連携を演練・確認



台湾有事：

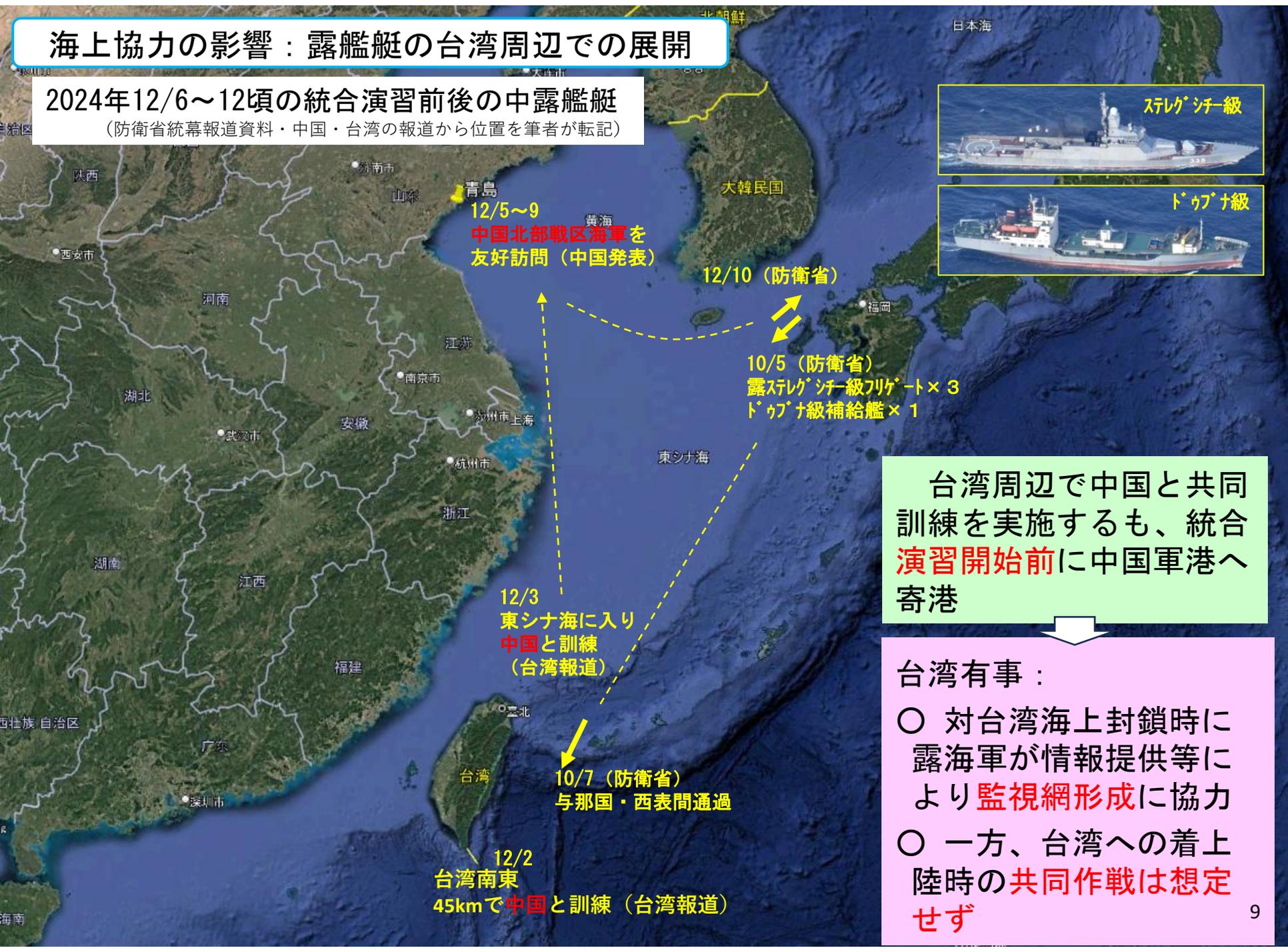
○ 中国北部戦区海軍 第1列島線以東での情報収集・接近阻止

○ 露海軍 第1列島線付近で活動、情報収集や日米の監視アセット吸引により中国に協力

海上協力の影響：露艦艇の台湾周辺での展開

2024年12/6～12頃の統合演習前後の中露艦艇

(防衛省統幕報道資料・中国・台湾の報道から位置を筆者が転記)



台湾周辺で中国と共同訓練を実施するも、統合演習開始前に中国軍港へ寄港

- 台湾有事：
- 対台湾海上封鎖時に露海軍が情報提供等により監視網形成に協力
 - 一方、台湾への着上陸時の共同作戦は想定せず

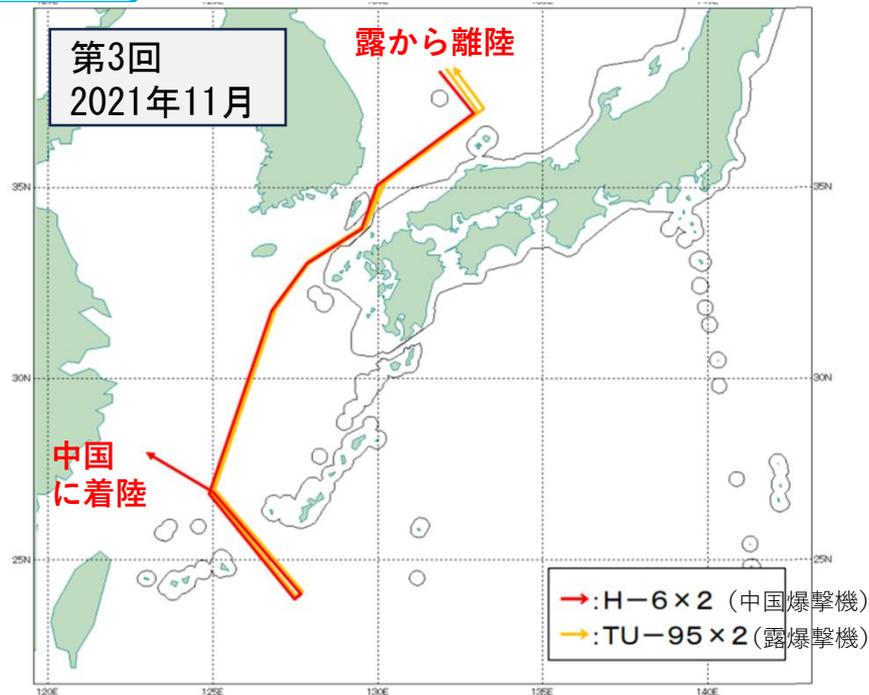
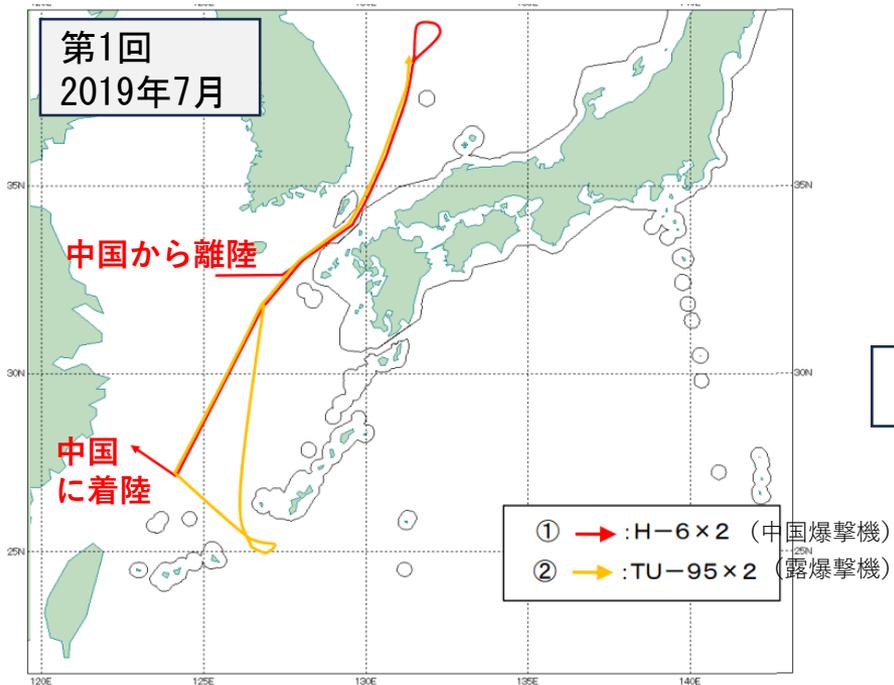
共同空中戦略パトロール

	場所	内容等
2019	日本海・東シナ海	中露爆撃機各2機による混合編隊
2020	日本海・東シナ海・太平洋	○ 太平洋へ初進出 ○ 中国爆撃機4機
2021	日本海・東シナ海・太平洋	中国機が露国内に着陸
2022	日本海・東シナ海・太平洋	情報収集機（露）初参加
	日本海・東シナ海・太平洋	中露が相手国に相互着陸、戦闘機（中）初参加
2023	日本海・東シナ海・太平洋	初の2日連続実施
	日本海・東シナ海	電子戦機（中）・哨戒機（露）初参加
2024	チュコト海・ベーリング海	太平洋北部へ初進出
	日本海・東シナ海・太平洋	空中給油機（中）・情報収集機（中）初参加

- **基地共有**：露国内の基地使用により、遠距離且つ複数の進出経路を確保
- **作戦戦闘飛行**：種類・規模が年々拡大、単なるデモ飛行からストライクパッケージによる作戦戦闘飛行へ深化

航空協力の影響：露から日本海に爆撃機の展開

(出典：左右共陸上幕僚監部に追記)



中国爆撃機が露国内の基地に前方展開し、日本海に直接進出



台湾有事：

- グレーゾーン時から露に常時展開すれば、北から飛行、日米に2正面作戦を強要
- 有事に中国への策源地攻撃により飛行場使用不可の恐れがある場合、露基地を退避・予備基地として使用の可能性

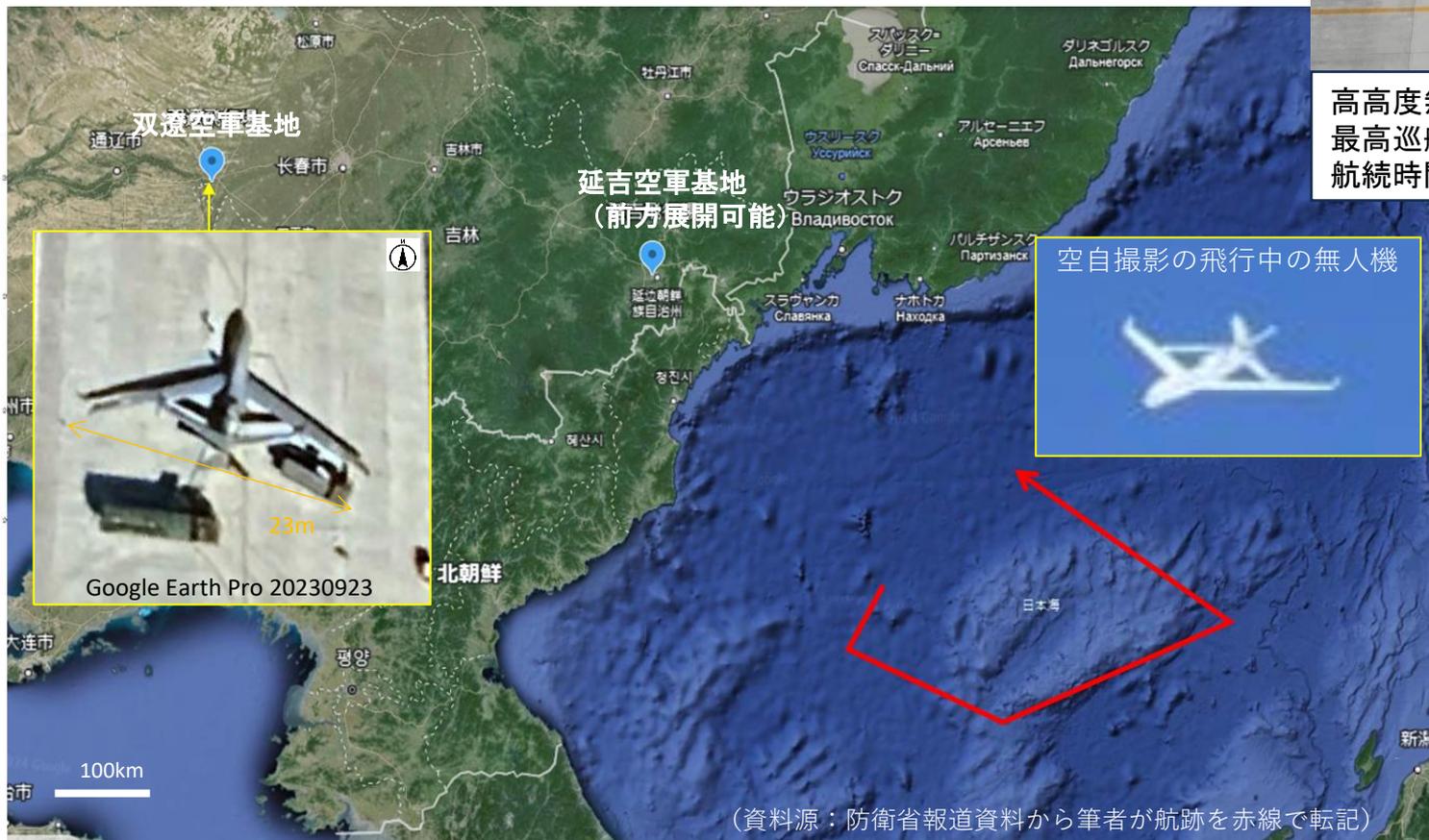
航空協力の影響：露から日本海に無人機の展開

- 2024年3月、中国軍無人機の日本海上空飛行が初公表
- 中国は日本海に面する国土未保有、露or朝の領空通過必要

【参考】WZ-7



高高度無人偵察機
最高巡航速度750km/h
航続時間10時間 (報道取り纏め)

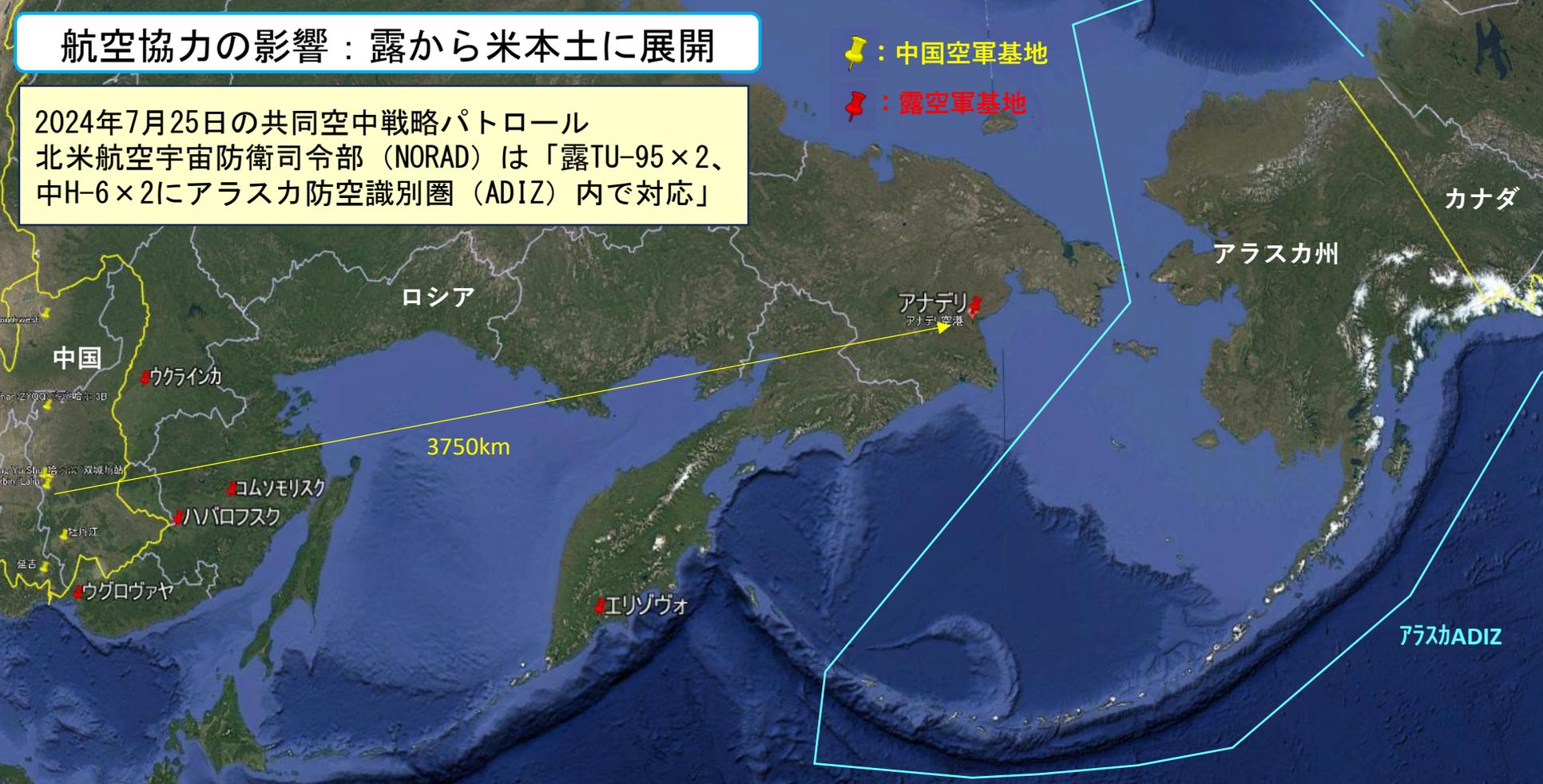


- 共同空中パトロールの蓄積に鑑み、露の領空通過の可能性
- 中露協力深化により、中国単独で露領空を通過する日本海進出ルートを確認

- UAVにより、効率的に日本の警戒監視アセットを2正面に分散
- 沿岸レーダーの代替として、日本海を航行する艦艇目標情報等を収集

航空協力の影響：露から米本土に展開

2024年7月25日の共同空中戦略パトロール
北米航空宇宙防衛司令部（NORAD）は「露TU-95×2、
中H-6×2にアラスカ防空識別圏（ADIZ）内に対応」



📌：中国空軍基地
📌：露空軍基地

H-6Kの行動半径3500kmから、露空軍基地に前方展開し、米ADIS内を飛行

- ◇ 露基地使用し戦略爆撃機を米本土正面展開
- ◇ 配備済のICBM、SLBMと併せ、**トライアド（核の三本柱）を完成させ、米への核抑止力向上**

中爆撃機に対応する米加戦闘機



(資料源：NORAD20240726)

宇宙協力の影響：ミサイル防衛机上演習「空天安全」

	場所	内容等
2016	露国防省航空宇宙防衛軍研究センター	<ul style="list-style-type: none">○ 中露初の司令部級共同ミサイル防衛机上演習○ 自国に飛来する弾道・巡航ミサイルへの対処につきシミュレーション○ ミサイル防衛協力についても協議
2017	中国北京	<ul style="list-style-type: none">○ ミサイル防衛作戦計画・指揮・火力協同等について共同演練

共同演習の背景

- 2016年：在韓米軍のTHAAD（終末高高度防衛ミサイル）配置で米韓合意
 - 2017年：韓国ソンジュ郡へ1個THAADシステムの配備完了
- ⇒ 中露は、グローバルな戦力安定を破壊する、として強く反発



中露の宇宙協力が進展

- 2019年：露が中の早期警戒システム構築に協力とのプーチンが発言
中露衛星測位政府間協力協定が発効、北斗とGPSが接続
- ⇒ 2024年米国防総省年次報告書では「中国は既に弾道ミサイル早期警戒・情報収集等に資する**宇宙監視ネットワークを確立**」と評価

- 露との情報・技術協力により、早期警戒態勢を確立
- LOW（警報即発射）が可能、対米核戦略を「**相互確証破壊**」に移行の可能性

戦略協力の影響：戦略演習

	主催	演習名	内容等
2018	露	ヴォストーク	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中が露の戦略演習初参加 ○ 北部戦区主体に3200人、中国含む2か国派兵
2019	露	ツェントル	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中が初の全期間参加 ○ 西部戦区主体に1600人、中国含む7か国派兵
2020	露	カフカス	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中が露の陸装備品使用 ○ 西部戦区主体に1コ合成群+、中国含む5か国派兵
2021	中	西部・連合	<ul style="list-style-type: none"> ○ 露（東部軍管区）が中の戦略演習初参加 ○ 露が中の陸装備品使用、混成部隊編成 ○ 中露のみ（計10000人）
2022	露	ヴォストーク	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中国艦艇が露の戦略演習初参加 ○ 北部戦区主体に2000人 ○ 中国含む9か国派兵
2023	中	北部・連合	<ul style="list-style-type: none"> ○ 海軍主体で日本海で実施
2024	露	オケアン	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中露が同時期に相互の戦略演習に参加
	中	北部・連合	<ul style="list-style-type: none"> ○ 共同演習は海軍主体、日本海・オホーツク海

- 露は共同作戦の実戦的訓練よりも多国の参加による欧米への牽制を重視
- 中国の参加は北部・西部戦区であり、台湾侵攻任務の東部・南部戦区なし

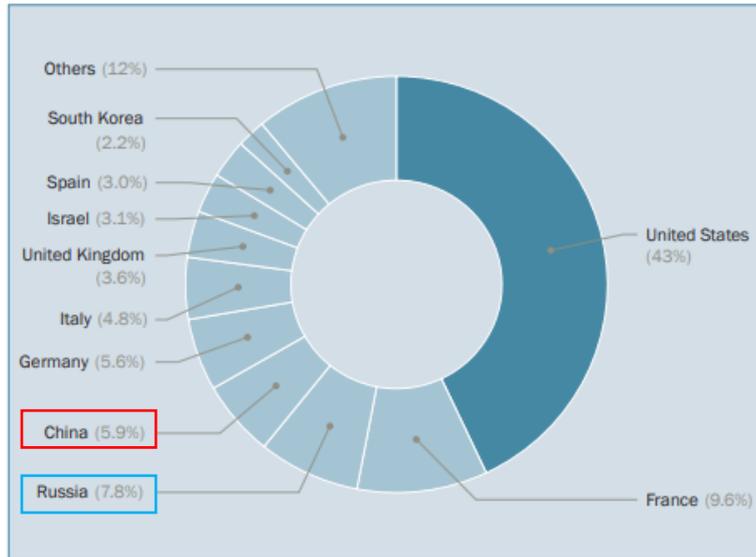


- 台湾侵攻時の着上陸共同作戦を目的としたものではない
- 中国は露からウクライナ侵攻での統合作戦や無人機・サイバー等の教訓を吸収
- 装備品の互換性を双方確認、戦時の武器・弾薬供与が可能

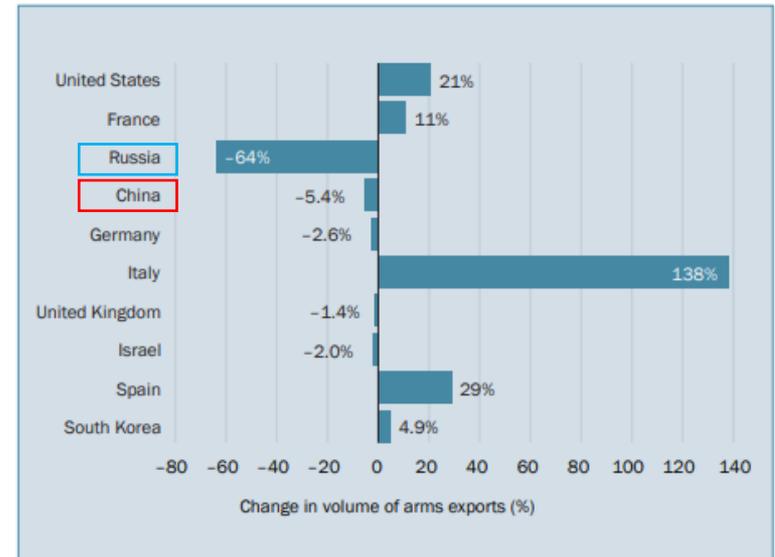
中露武器貿易

輸出 (2020-2024年)

武器輸出国の世界シェア



各国の武器輸出量の増減 (2015-19年と2000-24年の比較)



輸入 (2020-2024年)

	世界シェア (%)		前5年比 量増減 (%)	中国への輸出国のシェア (%)		
	2020-24	2015-19		Russia	France	Ukraine
China	1.8	5.1	-64	72	13	12

(出典：いずれもSIPRI FACT SHEET 2025.3)

- 露はウクライナ侵攻以降、武器輸出を大幅に減少
- 中国は武器輸入を年々低下させ、国産を増加させているものの、露からの輸入が大半

中露武器貿易

2015-2024年に中国が露から輸入した装備品（緑は2022年以降納入）

契約年	名称	種類	納入年
1997	Kh-31A1	anti-ship/anti-radar missile	2001; 2002; 2003; 2004; 2005; 2006; 2007; 2008; 2009; 2010; 2011; 2012; 2013; 2014; 2015; 2016
1998	9M119	anti-tank missile	2001; 2002; 2003; 2004; 2005; 2006; 2007; 2008; 2009; 2010; 2011; 2012; 2013; 2014; 2015
2004	Mineral	sea-search radar	2008; 2010; 2011; 2012; 2013; 2015; 2016; 2017; 2018; 2019; 2022; 2023
2004	Kh-59MK	anti-ship missile	2008; 2009; 2010; 2011; 2012; 2013; 2014; 2015
2004	MR-90 Orekh	fire-control radar	2008; 2010; 2011; 2012; 2013; 2015; 2016; 2017; 2018; 2019; 2022; 2023
2004	AK-176 76mm	naval gun	2008; 2010; 2011; 2012; 2013; 2015; 2016; 2017; 2018; 2019; 2022; 2023
2005	AK-176 76mm	naval gun	2007; 2011; 2012; 2016; 2018; 2019; 2020
2010	AK-176 76mm	naval gun	2013; 2014; 2015; 2016; 2017; 2018; 2019; 2020; 2021
2011	AL-31	turbofan	2012; 2013; 2014; 2015; 2016; 2017; 2021; 2022; 2023
2011	D-30	turbofan	2012; 2013; 2014; 2015; 2016; 2017; 2018
2011	Il-76M	heavy transport aircraft	2013; 2014; 2015
2011	AL-31	turbofan	2015; 2016; 2017
2012	AL-31	turbofan	2017; 2018; 2019; 2020
2014	AL-31	turbofan	2017; 2018; 2019; 2020
2015	AL-41F-1S	turbofan	2016; 2017; 2018
2015	Su-35S	FGA aircraft	2016; 2017; 2018
2015	D-30	turbofan	2018; 2019; 2020; 2021; 2022; 2023; 2024
2015	S-400 Triumph	SAM system	2018; 2019
2015	Il-76M	heavy transport aircraft	2015; 2016
2015	48N6	SAM	2018; 2019
2015	R-77	long-range air-to-air missile	2017; 2018; 2019
2015	9M96	SAM	2018; 2019
2017	Mi-17V-7	transport helicopter	2018; 2019; 2020; 2021
2019	Mi-171Sh	transport helicopter	2021; 2022
2019	Mi-171/Mi-171E	transport helicopter	2020; 2021; 2022

○ 航空機・SAM等露製の兵器を運用

○ ウ侵攻以降も、ヘリ・エンジン・76mm砲・レーダーを受領



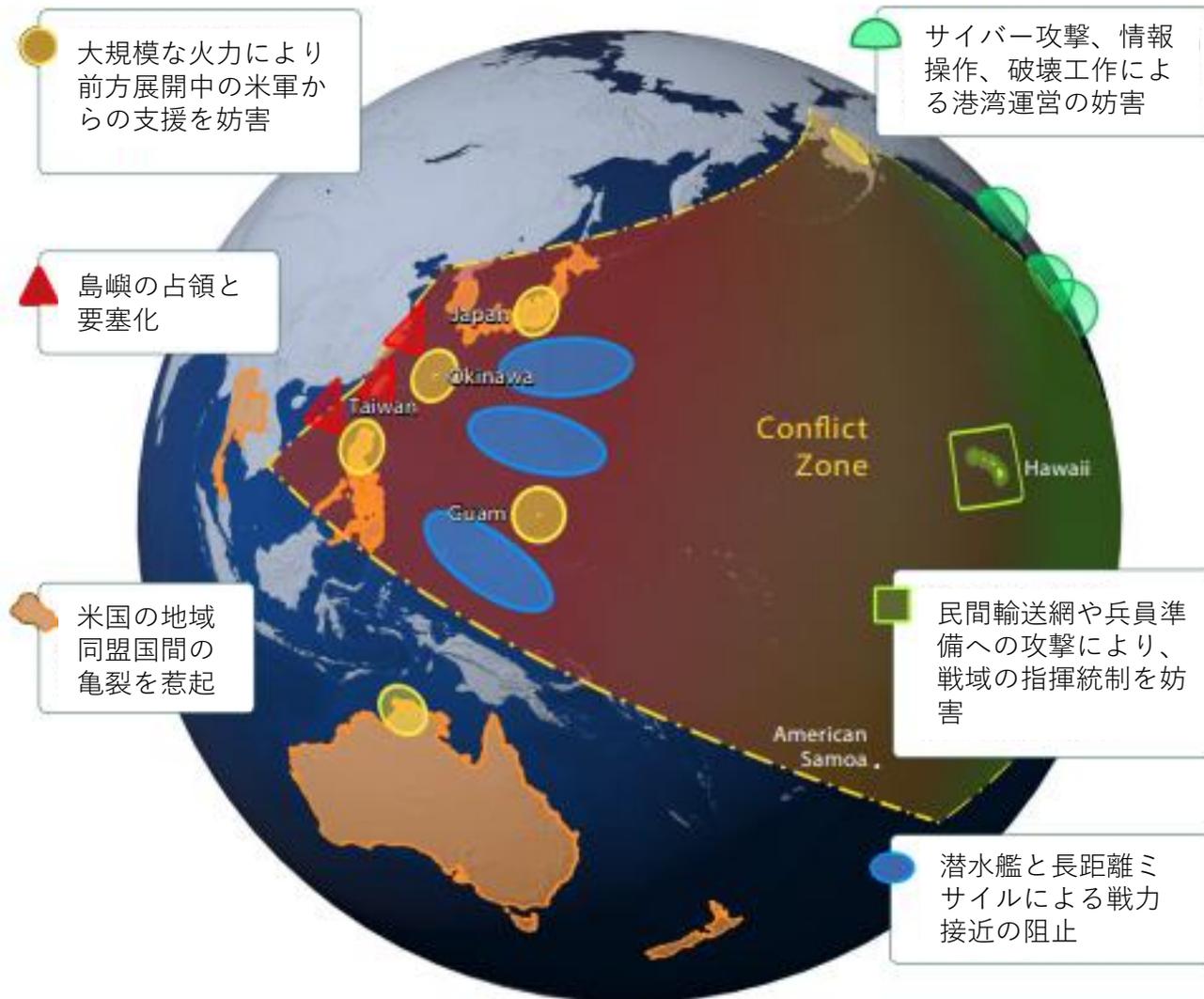
○ 台湾侵攻すれば西側諸国は禁輸発動、中国は露から武器・弾薬等の供与期待

○ 但し、ウ侵攻中の供与は困難。現時点では国内兵器産業を育成すると共に備蓄を推進

(資料源 : SIPRI Arms transfers database)

中国の対米介入阻止

TRADOC（米陸軍訓練教義コマンド）が想定する 「中国の西太平洋における統合反介入戦略」



台湾有事の際、アラスカ～ハワイを含む広域を紛争地帯として戦力投射



露の地理的・技術的協力は中国のA2/AD能力を強化

評価と日本への影響

中露軍事協力による中国の狙い

台湾侵攻時、**着上陸等の露の直接軍事介入は想定していないものの、A2/ADや核抑止等多くの分野で、支援・協力を期待**

○ 平時

- ◇ ウ侵攻からの教訓、特に無人機・サイバー等の**新領域の技術・運用要領**の習得
- ◇ 広域への戦力投射やミサイル防衛等に**必要な情報共有**

○ グレーゾーン～有事

- ◇ **露国内の作戦拠点**を利用、より遠方・多方向からの戦力展開
- ◇ 露の海・空・宇宙アセットからの**情報提供・監視支援**
- ◇ (ウ侵攻終了後) 露からの**武器・弾薬提供**

米国への影響

- 中国の遠方展開により、米軍の第1列島線への**早期展開が遅延**
- ミサイル早期警戒・トライアド等での協力により、中国の**対米核抑止力向上**

日本への影響

- 日本海及び東シナ海から展開してくる中国軍アセットへの**2 正面对処**
- 日本周辺での活動を活発化させる**露軍への監視・異常接近等不測事態への対応**
- 新領域、特に**無人機**での実戦能力を高める中国軍への対応